

令和 7 年

第 2 回（6 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通 告 者	6 番 岡 村 達 馬 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>波佐見焼の伝統と文化保持について</p> <p>(1) 伝統工芸士や技能士等への支援について</p> <p>長い歴史と伝統に育まれてきた「波佐見焼」は昭和 53 年に伝統的工芸品の認定を受けた。これは伝統工芸士や技能士をはじめ、多くの関係者によって産地を形成されてきたことや、伝統的な技術・技法の承継と向上に努められてきた賜物である。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>① 町内の伝統工芸士と技能士の現状は、認識されているのか。</p> <p>② 町内の伝統工芸士と技能士への支援策等は、どのようなことが行われているのか。</p> <p>(2) 伝統工芸士の作品展示場について</p> <p>九州北部の焼き物産地では、地場産業が衰退する危機にある中、技術の承継と発展を目的として、多くの産地では伝統工芸士の作品を展示する場所が設けられ、一般に公開されている。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>① 陶芸の館にあった伝統工芸士の作品展示場は、数年前に閉鎖され倉庫となっている。閉鎖に至るまでの経緯とその理由は何か。</p> <p>また、その際には伝統工芸士会の了承を得ていたのか。</p> <p>② 波佐見焼の承継、あるいは新しい技法を創出されている伝統工芸士は、町の貴重な財産であり誇りでもある。陶芸の館に伝統工芸士の常設展示場を改めて設置する具体的な検討等が行われたのか。また、再開のめどは立っていないのか。</p> <p>③ 福岡県内の小学校では、そうした施設が伝統工芸を学習する場となっている。本町でも推奨することはできないか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	2	通告者	10番 田添有喜 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 農業振興について</p> <p>米不足が続く中、米の価格も1993年頃の価格まで上昇し、国民の米作りへの関心が高まるなど、農家にとっては喜ばしい動きで、栽培意欲の向上につながることを期待される。</p> <p>しかしながら、農業振興にはまだまだ課題は多い。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 農業者等における熱中症対策の現状と課題は何か。</p> <p>(2) イノシシ被害対策としてのワイヤーメッシュ柵は、今後どのように支援して行くのか。</p> <p>(3) 近年の猛暑は、農作物に大きな被害をもたらしている。農作物の高温障害対策として、何らかの支援を考えているのか。</p> <p>2. 教育行政について</p> <p>本町の教育行政における大きな課題は、児童生徒の学力向上である。その対策として全国的に「教師の指導力の向上」が挙げられている。また、児童生徒を取り巻く教育環境の変化も著しいものがあり、全国的に多種の取り組みが行われている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 児童・生徒の学力を向上させるための課題と、その課題解決に向けた取り組みはどうか。</p> <p>(2) 今年度の全国学力・学習状況調査では、中学校理科でタブレットを活用して出題・解答する新方式が導入されている。本町での実施状況はどうかであったか。</p> <p>(3) 不登校対策として「校内教育支援センター」については設置されているが、町として「教育支援センター」を設置する考えはないか。</p> <p>(4) 学期及び夏季、冬季、学年末、農繁期等における休業日は、当該学校を設置する教育委員会が定めるとある。本町における始業式や終業式等の設定は、何を根拠に定めているのか。</p> <p>(5) 教育活動時における安全対策は、どのように行っているのか。(高温対策、PM2.5、黄砂、雷等)</p> <p>3. 災害対策について</p> <p>令和3年8月の豪雨は、本町に大きな被害をもたらした。梅雨期を迎えその後には台風シーズンも到来する。町民の尊い命や財産を守るためには、災害危険箇所の十分な点検を行うことが必要で、本町における重要な災害への対策と思われる。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p>		

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 5月30日に危険箇所の巡視が行われたが、新たに危険箇所として追加された場所は何件あったのか。</p> <p>(2) 災害対策として、支障木や電柱、街灯、看板等の点検と安全確認は、どのように行っているのか。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	3	通告者	5番 岡村 真由美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 米価高騰の町民生活への影響と本町における減反について 米価の高騰は終息の兆しが見えず、町民の生活にも影響があるものと考え。この要因は米不足が大きくかかわっていると思われる。そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 米価や諸物価の高騰は、本町の学校給食にどのような影響を及ぼしているのか。</p> <p>(2) 本町の農地の総面積、遊休地の面積及び水田の作付け面積は、近年どう推移しているか。</p> <p>(3) 減反による米の生産調整は、今も行われているのか。</p> <p>2. 波佐見高校存続に向けた支援策の実績と成果について 令和3年から行われている波佐見高校への支援策は、一定の成果を上げてきている。しかし、波佐見高校は依然として厳しい定員割れの状況にある。そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 支援策の内容について、今年度新たに変更する点があるのか。</p> <p>(2) タウンバスの運行は支援策の一つとも言える。高校生のタウンバス利用状況はどうか。</p> <p>3. こども家庭センターについて 2月21日に「こども家庭センター」の開所式が執り行われ、3か月が経過した。そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 旧庁舎の一部を大規模改修し完成した施設だが、工事費の総額はどれくらいだったのか。</p> <p>(2) これまでの主な事業の実績等はどうなっているか。また、今後の課題、あるいは町民の反応はどうか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	4	通告者	8番 城後 光 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>新庁舎建設事業の総括および今後の庁舎活用策について</p> <p>令和6年度末をもって完了した新庁舎建設事業は、町の行政運営の中心として、新たな拠点を形成するもので、多くの町民の関心を集めてきた。新庁舎の整備が完了した今、事業全体の成果と課題を振り返ることは、今後、更新時期を迎える公共施設の整備にあたって有意義なものとする。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 新庁舎建設事業の総括について</p> <p>① 事業完了までの期間、事業規模及び費用が、当初計画と実績で差異したのはなぜか。</p> <p>② 事業費の財源内訳（基金、一般財源、起債、国補助）と公債費の償還の計画はどうか。</p> <p>③ 工事中における課題や教訓があったのか。また、それは今後の事業にどう活かすのか。</p> <p>(2) 新庁舎の機能と町民・職員の利便性について</p> <p>① 新庁舎へ移転後、来庁者・職員双方から、どのような使い勝手の評価を得ているか。</p> <p>② 防災拠点としての機能、利用者の安全対策については、どのような効果があったか。</p> <p>③ バリアフリー対応、案内表示、スペースの配置など、誰もが使いやすいよう配慮されていたが、開庁後に利用者の声を踏まえ、何かしらの対策が行われたのか。</p> <p>(3) 今後の庁舎利活用と建設にあたって取得した町有地の活用策について</p> <p>① 1F 情報発信スペース、2F 展望テラスなどを町民活動やイベント等に開放する考えはないか。</p> <p>② 庁舎建設にあたり、土捨て場として取得した町有地の今後の活用策はあるのか。</p> <p>③ 新庁舎の維持管理にかかる年間費用の見通しと、将来的なコスト削減策などはあるのか。</p>		

質問の相手	町長

通告順位	5	通告者	4番 横山聖代 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. G I G Aスクール構想の検証について</p> <p>G I G Aスクール構想は、全国の児童生徒に1人1台の端末を提供し、教育現場でのICT活用を目的とした、政府が進めるプロジェクトである。本町も導入から5年が経過し、ファーストG I G AからセカンドG I G Aへ移行されることから、今までの成果や課題を検証する必要があると思う。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) G I G Aスクール構想は、本町の教育現場にどのような影響を与えたか。また、どのような評価をしているか。</p> <p>(2) 児童生徒に対し、ICTを活用した授業や学習活動が、従来の学習方法とどう異なり、どのような成果が確認できたか。</p> <p>(3) ファーストG I G Aでの成果や課題をどう捉え、セカンドG I G Aに移行していくのか。</p> <p>2. 絆の日について</p> <p>ゴールデンウィーク期間中の平日を体験的学習活動休業日とする『絆の日』が始まって3年が経過した。本年度は、学校を開放した子供達の受け入れ体制がとられたが、以前に一般質問でも議論した「評価するためのアンケート」は、未だ実施されていない。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) アンケートを実施しなかった理由は何か。</p> <p>(2) 3年が経過した節目でもあり、アンケートは実施すべきではないか。</p> <p>3. 食の魅力向上と名物料理の開発による地域活性化について</p> <p>平成29年度に来町者数100万人を突破し、コロナ禍では一時的に落ち込んだものの、その後の交流人口は毎年増加している。</p> <p>観光の楽しみの一つに食がある。町内の飲食店数は増加しているが、これといった名物料理は見当たらない。来町される観光客の満足度をさらに向上させ、地域活性化を促進するためにも、本町の名物料理を開発しブランディングする必要性を感じる。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 町の名物となる食べ物を開発する計画や、これまでに取り組んだことがあるか。</p>		

(2) 名物料理をブランド化する際の課題は何か。また、その解決にはどういったことが必要となるか。

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	6	通告者	2番 脇坂正孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 寄贈された貴重な資料について</p> <p>町内外から歴史的に貴重な資料が数多く寄贈されている。受贈後の資料は適切に保存し、調査・研究、公開等なされているが、収蔵する施設が手狭になってきたと聞いている。今後も貴重な資料の寄贈が考えられ、十分な受け入れ体制を整えておく必要がある。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 過去3年間の寄贈件数と、令和6年度末までの累計件数はどうか。</p> <p>(2) 寄贈資料の収蔵は、現在どう行っているのか。</p> <p>(3) 寄贈資料は、どのように活用しているのか。</p> <p>(4) 収蔵施設として、空き教室や、町有財産となった十八親和銀行旧波佐見支店を活用できないか。</p> <p>2. 図書館を利用する環境の充実について</p> <p>図書館は「知識や情報の拠点」として、本町の貴重な教育・文化施設である。しかし、現状は総合文化会館の奥に位置し、また、面積も狭く利用しづらいとの声を聞く。図書館は町民にとってより身近な施設であるべきである。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 図書館協議会の開催状況と、その主な協議事項は何か。</p> <p>(2) 来館者及び貸出冊数の推移はどうなっているか。</p> <p>(3) 総合文化会館の玄関に図書館の看板を掲げるとともに、役場庁舎、東小校区、南小校区に、それぞれ返却ポストを新設できないか。</p> <p>(4) ホームページの改善はできないか。</p> <p>(5) 閲覧室（開架書庫）を拡張するため、旧教育委員会事務室などの改修はできないか。</p> <p>3. 孤独死・孤立死について</p> <p>2024年に死後8日以上経過して見つかった人（孤立死）は、全国で約2万2千人に上ったとの報道があった。痛ましく残念なことであり少しでも防止することが必要である。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 本町で発生した、孤独死・孤立死の過去3年間の状況はどうか。</p> <p>(2) 孤独死・孤立死があった場合の対応はどうしているのか。</p>		

(3) 孤独死・孤立死を防止するための対応策はどうか。

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	7	通告者	7番 三石 孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 見守り支援事業について</p> <p>少子高齢化が着実に進行している中、独居の高齢者や単身者も増加傾向にある。緊急時の対応に不安を抱える人も少なくないと言われており、本町においても数々の見守り支援事業が行われている。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 見守り支援事業の内容と利用状況はどうか。</p> <p>(2) その周知方法はどうか。</p> <p>2. 農業振興について</p> <p>6月に入り、いよいよ田植えのシーズンが到来した。米価の改定も行われ、農家に活気が戻って来たように感じるが、一方では、高齢などの理由から農業の継続を断念されるケースも発生していると聞く。</p> <p>このような中、本町には農業支援の単独事業として、小規模農林事業と農林業経営支援事業の補助制度があり、これらの活用で更なる活性化が図られるものと期待をしている。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 小規模農林事業の近年の申請状況はどうか。</p> <p>(2) 今年度から始まった、農林業経営支援事業の補助内容はこういったものか。</p> <p>(3) 農林業経営支援事業の課題と対策は。</p> <p>3. 公共施設の整備について</p> <p>農村環境改善センターは、多目的研修施設として昭和 55 年に建設され、築 45 年となった。近年、老朽化に伴う改修工事が行われてきたものの、更なる改修を求める声も多い。</p> <p>特に、ホールの空調設備については、改修を強く求められているが、その計画はないのか。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	8	通告者	1番 前田博司 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 災害時における避難所について</p> <p>近年、全国各地で大雨・ゲリラ豪雨に伴う災害が発生することが多くなった。過去、大雨による大被害を受けた方の声では、「避難準備情報の発令を耳にしても避難を始める情報として認識できなかった」や「まだ余裕があるだろうと思った」などがある。</p> <p>大雨やゲリラ豪雨による被害予想ができていないケースが見られると聞いたことがあり、いかに備えと心構えが大事なのかを考える。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 災害時における指定避難所、指定緊急避難所、福祉避難所は、それぞれどのような役割をするのか。</p> <p>(2) 指定避難所等以外の避難場所には、どのようなものがあるのか。</p> <p>(3) 災害の種類によっては、指定避難所が変わることがあるのか。</p> <p>(4) 避難情報等の発令や避難所開設のタイミングについて、町民は認知できているか。</p> <p>(5) 自治会や事業所等における避難訓練や防災意識の醸成を図る啓発はできているか。</p> <p>2. 各地区の公民館について</p> <p>各自治会の公民館や集会所は地域住民の交流の場・憩いの場としてだけでなく災害時の避難場所としても重要な役割があると考えますが、人口減少などにより施設の維持が困難となりつつある。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 今後、各地区の公民館が果たす役割についてどのように考えているか。</p> <p>(2) 各地区の公民館等の老朽化の状況は把握できているか。</p> <p>(3) 建替えに対する現在の補助制度等は十分といえるか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	9	通告者	9番 福田勝也 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>ふるさとづくり応援寄附金、及び基金の活用について</p> <p>平成29年度から順調に推移している「ふるさとづくり応援寄附金」は、令和3年度に20億3千万円に達し、現在においても約18億円の寄附額となっている。</p> <p>このことは、本町の事業者の売上にも大きく寄与しているだけでなく、町政運営においても多様な事業の財源に活用されている。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) ふるさとづくり応援寄附金の令和6年度実績と、「ふるさと納税 3.0」の活用状況はどうなっているのか。</p> <p>(2) 基金を活用するにあたっては、どのような基準、要件としているのか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	10	通告者	11番 北村清美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 災害対策について</p> <p>今年2月に、岩手県大船渡市で発生した山林火災では約3,370haを焼失した。消防庁と林野庁は合同検討会を開き、消火活動を検証し、火災予防策の報告書を夏までにまとめるとある。</p> <p>本町も地震・豪雨災害などに加え、山林火災への対策も考えなければならない。季節に関係なく災害は起こりえる状況である。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 避難所の課題には、どういったことがあるのか。</p> <p>(2) 消防団が抱えている課題は、何かあるのか。</p> <p>(3) 耐震水道管への交換状況、また、課題としてはどういったものがあるのか。</p> <p>2. 町政運営について</p> <p>デジタル社会の進展、格差の拡大、不安定な政治など、世の中は常に変化し、これまでの常識が通用しない時代になっている。だからこそ、「波佐見町の未来を守り、育てるために何をするか」との観点で、新たな発想、軸の発見によって予測困難な未来への心構えを町民の皆さんとともに考えることが大事である。</p> <p>理想の世界を描き、現状を把握し、そのギャップを問題点と捉え、解決の糸口を見つけることが大変重要となってくる。</p> <p>現在、約1,740の自治体がある。100年後には300～400程度になると云われているが、何が何でも「波佐見町は存続しなければならない」と考える。</p> <p>そこで次のことを問う。</p> <p>(1) 四方遠方に目を配り、波佐見町のサバイブ（生き残り）をかけた「かじ取り」を、今後どう行うべきと考えているか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長